



大分県議会議員 2020年 冬号  
県民クラブ会報「県民ひろば」別府市版

# 原田たかし 会報

教育・福祉・労働

子どもたちが「生まれてきてよかった」、  
高齢者の方々が「長生きしてよかった」と  
思える社会を実現するために。

大分県議会議員 原田 孝司

発行責任者：大分県議会・県民クラブ 原田孝司

連絡先：別府市荘園町3組の2 原田たかし事務所 TEL・FAX 0977(25)0011 E-Mail harada@ctb.ne.jp

## 2019年第4回定例会行われる 第4回定例会報告

皆様方におかれましては、健やかに新年をお迎えのことと存じます。

さて、2019年11月25日(月)から12月11日(水)にかけて大分県議会2019年第4回定例会が開催されました。

今回提出された議案は、3,622万9千円（累計6,500億389万9千円）の本年度一般会計補正で、内容は大分県立病院の新生児集中治療室（NICU）の病床を増やす事業です。財源は県立医療施設整備基金を取り崩すとしています。また、予算外議案では、大分県特殊詐欺等被害防止条例制定案、リバーパーク犬飼の指定管理者の指定案など15件が提案されました。

12月11日(水)の閉会日に採決が行われ、原案通り可決された他、県民クラブが提出した「地域医療を守る公立・公的病院の維持・存続のための支援の拡充を求める意見書」(案)は全会一致で可決されました。

### 地域の 公立・公的病院の 維持・存続を



昨年9月26日、厚生労働省は全国の公立・公的病院のうち、424の病院を、名指しで、「再編や統合の議論が必要である」とする医療機関の発表を行いました。県内でも、**杵築市立山香病院**、**臼杵市医師会立コスモス病院**、**竹田医師会病院**の3病院が対象に上り、病院関係者や地元の市民から憤

りや不安の声があがっています。

厚生労働省は各自治体に今年9月までの方針決定を迫り、当該自治体からは「地域の実情を考慮していない」「発表リストを撤回すべき」など、疑問と批判の声が相次いで出されています。（10月30日、批判を受けて厚生労働省は「住民の不安を招き反省している。再編を強制するものではない」と釈明）

地域医療構想や医療費適正化計画の影響で、病床の削減や入院の短縮化など様々な課題がある中で、地域の医療の中核となっている公立・公的病院の再編や統合は極力慎重に協議すべき議題だと考え、私たちはこの意見書案を提出しました。

## 盛り上がった！ラグビーワールドカップ2019日本大会

多くのみなさんがラグビーワールドカップの試合を御覧になったことでしょう。全国の応援に応え日本代表チームが4戦全勝で決勝リーグに進んだ快挙は素晴らしかったですね。オフロードパスを繋いでトライする場面では、にわかラグビーファンの私も、ファンゾーンのパブリックビューイングやテレビの前で多くのみなさんと一緒に歓声をあげました。

大分で開催された5試合も無事終了しました。携わられた多くの関係者の皆様に感謝を申し上げます。また、懸案事項であった観客輸送も試

合ごとに改善されていったと報告されています。そういった大分会場の評価が、今年7月4日に昭和電工ドームで日本代表vsイングランド戦が行われることに繋がったのだと思います。（試合のチケットの入手は難しくなりそうですね…）

私の居住する別府市では、このワールドカップの開催期間、ここはどこかの国なのかと見間違ふほどに外国人の方々があふれていました。多くのレガシー（未来に残したい実績・思い出）を作ってくれたワールドカップにあらためて拍手です。



### 折り鶴に込めた願い

原田孝司のシンボルマークは平和を象徴する折り鶴です。  
背景には、教育・福祉・労働を表現する虹がかかっています。

